



第77号 発行 平成21年7月20日 所収 田舎 平賀 用賀

お地蔵さんの引越

前賀寺 金子隆芳 用賀・馬事公苑近くたぐコース33番は中丸地蔵です...

玉川大師

瀬田牛丁目に玉川大師の名で知られている真言宗智山派玉真院があります。境内には5mの秘法大師石像があり、地下霊場がある...

夏身近なまちの探訪

東京農大・食と農の博物館 博物館長 島野孝一 2004年4月に開館した当館は、馬事公苑正門前にあり...

戸板学園

戸板学園事務長 柴原 智 平成5年にこの用賀で教育を展開してから早や16年になります。

戸板学園20年総会・発足する

戸板学園事務長 池田良夫 二子玉川の再開発工事も着々と進み、まもなく新しい住民、約三〇〇〇人を迎えることになりました。

木洩れ日

飯田恭次 昨年九月のニューヨーク発金融危機は各国に波及、又、今年四月のメキシコの新型インフルエンザも日毎に感染拡大、今や私たちは国際化と云う言葉を超えて地球社会としての視点が必要になった様に思います。

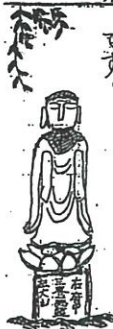
★ この間、日本の国内政局は福田政権より麻生政権へ年金処理、不況対策、かんぽの宿売却問題、定額給付金、裁判員制度導入等々と続く中で、野党第一党の民主党代表も小沢氏から鳩山氏へと交替。今、都議会議員選挙が終って、永田町は殊の外、暑い夏を迎えています。

★ そして、身近な私たちの町は本格的な少子高齢化時代に入り、家族集団は急速に縮小、老々介護の先には『孤老生活』が待ち受けています。

そこで、そろそろ老いの白を明るく楽しく過ごす為の心の準備『友文道』をお勧めいたします。

まず、友(ゆう)、性別を問わず、お友達を大切に次に、文(ぶん)、文を読み、書き、おしゃべり。最後に道(どう)、半徑二軒四方の町並散歩...

語合せのようですが、この『ひろば』の前編編集長、鈴木武一氏は優文堂(ゆうぶんどう)書店の店主さんでした。



そこを無量寺さんのお蔭で安住の地を得たという次第です。



ところが、その後も用賀は変わらず続け、菩薩もいよいよ住みにくくなったようです。

郷土紹介

太古のロマン 瀬田のヒスイ

二子玉川
瀬田四丁目 金長 池田良夫

院の病棟建築工事中に古代住居跡が見付かり、学術調査が行われた。後に、下山遺跡と名前がつけられたが出土品の中から太古のロマンを伝える興味ある発見が二つあった。

一番目は、住居跡の他に集会用に用いられたのか、大きな建物の柱跡が出土したことである。

近年、九州の吉野ヶ里や青森の山内丸山遺跡でも話題となった、共同の目的に使用されたと思われる穀物倉とか、集会場跡の遺構である。

謡曲と仕舞

上賀賀町 金子金一

六〇〇年以前から続いている「能」の世界と出会って十数年になりますが、思っていた以上に長く続いています。理由は幾つかありますが、一つに、自分を客観的に見る良い機会になった事です。

例えば、普段日常生活の中で私達が気にもしないで行っている行動を、見つめ直す機会にもなりました。

物を見る、話す、読む、歩くなど、毎日の生活がいかに能の型と係わりが多いかが、少しずつ解りかけています。

見る事一つとっても、顔をほんの少し下向きに、そこに心の動きが伝わります。「謡曲」を通じて、言葉の

多摩川の左岸に大きな勢力を持つ大王が豪族が存在したことは、野毛の大塚古墳からも想像されるが、二百人以上も入れる建物で何を相談したのか、ロマンを感じます。

もう一つは「ヒスイの飾物」の出土である。日本のヒスイの産地は、ただ一ヶ所、富山県の糸魚川の流域であるので、はるばると瀬田の地までどんな経路で辿り着いたのか、古代のロマンである。

現代の私達が考える以上に、日本全土の交易が可能だったのではなかったのか。黒曜石の産地が八ヶ岳や伊豆七島であるのに、全国から出土する。人々の交わりの広さが夢をかきたてる。



「間」の大切さも習っています。

先生が何時も話して下さることは、誰でも初めから解る人はいない。初めは解らないことが出てくる、これは恥かしい事ではなく、それよりも、続けることが一番大切だと言って下さいます。

これからも、「能」を通して、自分の生き方を楽しみながら広げていきたいと思っています。

よく演じられるものに
竹生島
橋弁慶
狸々
羽衣
三井寺
鞍馬天狗



などがあります。

用賀心の故郷

上賀賀町 高橋保子

泥の道、生垣、陸稲、山並、浮かぶ富士。育った地に似た景色を嬉しく思いつつも、厳しい生活に落ち込んだ時、この地で生まれ育った主人が聞かせてくれた少年時代の思い出話から、育んでくれた大切な場所、谷沢川のこと。

水源は何処か知る由もないが、元は田圃の真ん中を静かに流れ、区画整理後は新しい道路沿いに直線的な用水路としての流れに変わり、流れは澄み、水底は柔らかで水の涵れる事もなかったとか。金鮎、銀鮎、泥鰌、源五郎鮎、おんぼこ、金めだか、銀めだか、葦海老、背が黒腹が赤い長い尾の井守等、

わが故郷

あめんぼう、やこ、つま、食用蛙等もいたそうです。若芽の出始めは水底の蛙の卵を採って大騒ぎ、夏は川底の泥を全身に塗り黒ん坊、秋は枯草を焼き、一列に並び放尿、失敗し上衣で叩き消し大騒ぎ。増水の治まるのを待って用賀プールを作ろうと、スコップで川の淵を削り、オッサンに家まで追いかけられた時の話などに、なぜか心が噴れやかに。このごろのくらしの中では、複雑な問題等を抱え、相談のために来訪される方々から、逆に私が励まされています。爾来五十有余年、この用賀が私の故郷、心の故郷と思える気持ちがします。



ふたぽつ

今年の夏の行事

①盆踊り

用賀くすのき公園

7月22日(水)23日(木)

二子玉川西地区ふれあい広場

7月24日(金)25日(土)

瀬田小学校

7月25日(土)26日(日)

用賀小学校

8月21日(金)22日(土)

②子ども映画会

上用賀アートホール

7月21日(火)

用賀神社事務所

7月26日(日)

瀬田小学校

8月7日(金)

用賀区民集会所

8月20日(木)

③納涼の夕べ

用賀いらか道

8月24日(月)

午後4時から8時まで



昭和五十八年十月は産声をあげた「ひろば」は今回七十七号、四半世紀余を歩んで来た事になります。

昭和から平成へと私たちの町も大きく姿を変えました。そこで、本号は身近なわが町探訪、いつも車で通り過ぎてしまふ小路にも新しい発見が沢山あります。

道端にひっそり立っているお地蔵さん、二子玉川の再開発、お酒の試飲が出来そうなお店、等々。ご家族で、お友達同士で夏の一日、町並み散歩は如何ですか。パスポートは不要、通訳、ガイドも要らず、財布のお金は両替しないで、そのままで使えます。

(飯田)